

【半導体】ST、STB分野でのエネルギー削減のコミットメントを発表

伊仏STMicroelectronicsは3月31日、STB分野における消費電力削減のコミットメントを発表した。STのSTB用HDデコーダ「STI7105/7111/7141」などの最新チップは、電力制御用ソフトウェアドライバ「STPOWER」を採用し、STB内部の各構成要素のエネルギー消費のモニタと制御を行うパワー・マネージメント機能を搭載している。また、55nmプロセス技術と設計手法により、約10%の消費電力削減を実現した。

【半導体】ADI、uClinux OSを実装したBlackfin用リファレンスデザインを提供

米Analog Devices(ADI)は3月31日、“Blackfin”プロセッサ「ADSP-BF526C」をベースにしたIPサーベイランスシステムとマシンビジョン用リファレンスデザインの提供を開始すると発表した。同リファレンスデザインは、基本OSソフト「uClinux」を実装したBlackfinプロセッサ上で動作。カメラデザインやD1/HD1/CIF分解能のイメージセンサを含む完全なIPビデオカメラ用機能を実装している。これにより、開発エンジニアによる「スマートカメラ」の迅速な設計をサポートするという。詳細は <http://www.analog.com>

【半導体】TSMC、0.18μm組み込みフラッシュプロセスファミリを発表

Taiwan Semiconductor Manufacturing(TSMC)は3月31日、0.18μm組み込みフラッシュ(embFlash)プロセステクノロジーファミリの認定作業を終了したと発表した。同ファミリには、ベースラインとなる1.8~5Vのスタンダードプロセスの他、超低リークプロセス、自動車向けに認定された組み込みフラッシュIPが含まれている。0.18μmプロセスは、7枚のマスクを追加するだけで組み込みフラッシュの機能を実装することができ、TSMCのFab3で生産を行う。

【半導体】DRAM価格上昇によりTMC設立の意欲が減退

DigiTimesによると、最近のDRAM価格の上昇により、台湾DRAMメーカーは政府主導によるTaiwan Memory(TMC)への参加を見合わせる傾向にあるという。指標となる1G DDR2のスポット価格は3月に1ドルまで回復し、4月も同様に上昇すると予想される。こうした状況を受け、メーカー各社では価格競争を取りやめる一方で、TMCへの協力に対する意欲が削がれているという。

【EDA】Cadence /NECEL、V850をIPコアに採用したシステムLSI開発で協業

米Cadence Design SystemsとNECエレクトロニクス(NECEL)は3月31日、NECEL製32ビットCPU「V850」をIPコアに採用したシステムLSI開発で協業したと発表した。Cadenceの最新レイアウト設計ツール「Encounter Digital Implementation System v8.1」を駆使し、レイアウト設計で特性ばらつき条件の分析や最適化を効率的に進め、設計期間を半減させたという。

【製造装置】日立ハイテク、商事統括本部を設立、環境/エネルギー分野に注力

日立ハイテクノロジーズは3月31日、商事機能の強化を目的として4月1日付で商事統括本部を設立すると発表した。同本部内には、商事戦略本部/環境・エネルギー営業本部を新設するとともに、既存のITソリューション営業本部/工業材料営業本部/電子材料営業本部を同本部内に移管して5本部体制とする。環境・エネルギー営業本部はLiイオン電池/太陽電池/燃料電池/車載用デバイス事業などを積極的に推進する。その他、半導体製造装置営業統括本部ではチップマウンタ部門とアセンブリ部門を統合して実装システム営業本部を新設し、ライフサイエンス営業統括本部は科学システム営業統括本部に名称を変更する。

【製造装置】AMAT/ディスコ、ウェーハ薄厚化プロセス技術を共同開発

米Applied Materials(AMAT)は3月30日、ウェーハの薄厚化プロセス技術をディスコと共同開発すると発表した。AMATのエッチング/成膜/CMP装置とディスコのバックグラインダを組み合わせ、Through Silicon Vias(TSV)など3次元実装に向け、プロセスフローの向上とコスト削減に貢献していく。

【製造装置】Axcelis、SHIに対するSENの売却を完了

米Axcelis Technologiesは3月30日、住友重機械工業(SHI)との合弁会社SEN-SHI・アクセルスカンパニー(SEN)のSHIへの売却を完了したと発表した。2009年2月の合意に基づき、Axcelisが保有するSENの全株式6000株とイオン注入装置に関する特許の実施・販売権をSHIに譲渡した。売却額は約1億2230万ドル。

【分析装置】SIIナノテック、NuのHR-ICP-MSの国内独占販売を開始

エスアイアイ・ナノテクノロジー(SIIナノテック)は3月31日、英Nu Instrumentsと販売契約を締結し、4月1日からNuの高分解能型ICP質量分析装置(HR-ICP-MS)「AttoM」の日本国内における独占販売を開始すると発表した。AttoMは二重収束型のHR-ICP-MSであるため、ほとんどの試料において測定時に干渉する分子イオンの影響を受けることなく対象元素イオンが測定できる。元素分析をはじめ、物質の産地/起源/変遷の解析や年代測定などのための高精度な同位体比分析が可能という。価格は8400万円から。詳細は <http://www.sinnt.com>

【部材】青山学院大 阿部氏、紫外光で青色に発光する有機化合物を開発

青山学院大学 理工学部 化学・生命科学科 准教授の阿部二郎氏は4月1日、紫外光を照射した時にもみ無色から青色に発光する新しい有機化合物(高速フォトリソミック化合物)の開発に成功したと発表した。同化合物は、発色状態から光を遮ると、約30msで消色するため、人間の目では残像を認識することができないという。高速変色型の調光サンングラスに利用できる他、ホログラフィ方式の立体TV開発にも寄与するものと同大学では期待する。この化合物は、関東化学が販売することになっており、第19回ファインテック・ジャパン(4月15~17日開催)でも展示される。